

経営比較分析表（令和元年度決算）

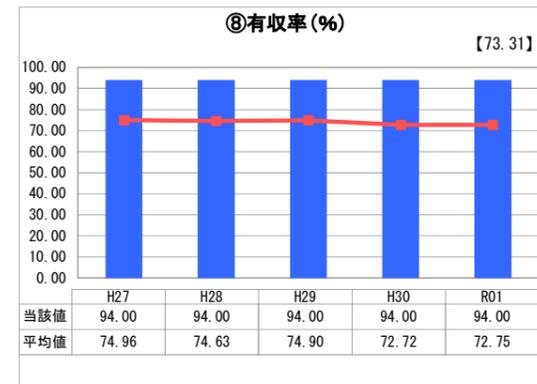
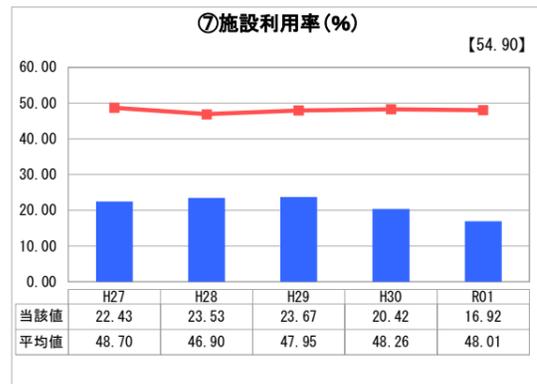
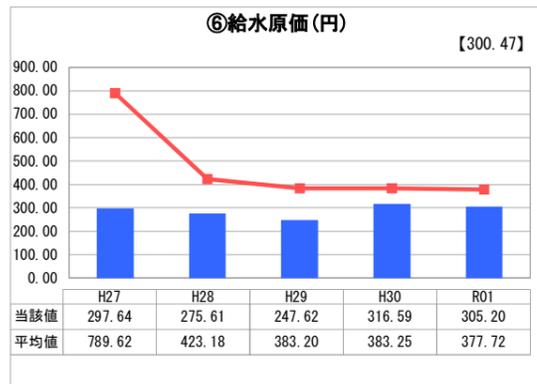
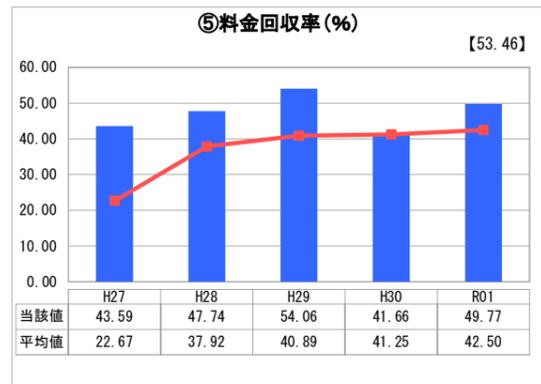
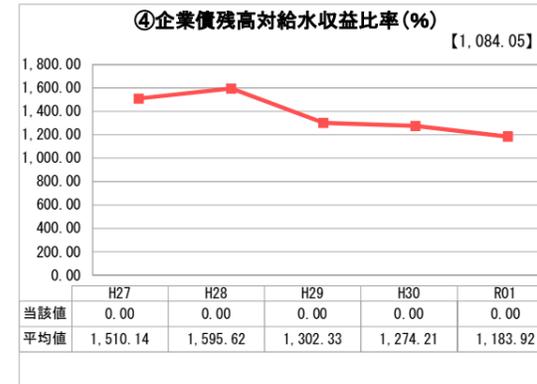
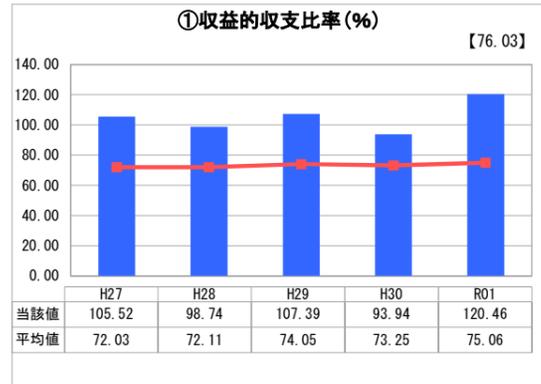
宮崎県 門川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	1.30	2,640	

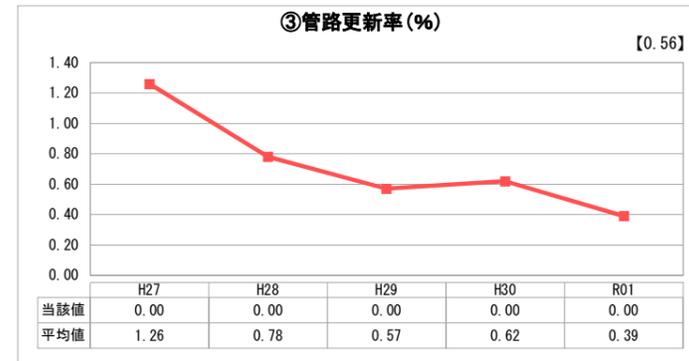
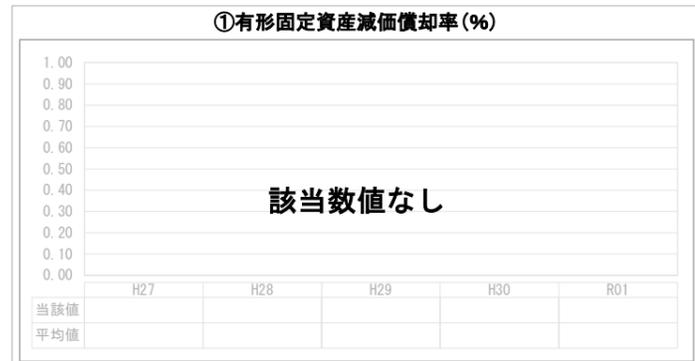
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,981	120.52	149.20
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
233	1.32	176.52

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

簡易水道料金は、給水区域内の公平性を確保するため水道事業と同一料金となっておりますが、給水費用の全てを水道料金に転嫁することは困難であるため、収支不足分を一般会計からの繰入金で補っている状況です。

「収益的収支比率」は100%を超えていますが、収益の大半を一般会計からの繰入金で賄っている状況であり、経営の健全性が確保出来ているとはいえません。また「料金回収率」は、令和元年7月の水道料金値上げによりやや改善しましたが、今後も適切な料金収入の確保が必要だと言えます。

「企業債残高対給水収益比率」については、現在は起債残高がありませんが、今後の老朽管更新計画を作成し適切な投資を行えるよう検討する必要があります。今後起債が増える可能性があります。

「給水原価」は、当該指標が平均値や類似団体より低い状況ですが、引き続き維持管理費の削減といった経営改善の検討を行う必要があります。

「施設利用率」は、配水量の減少により平均値を下回っているため、施設規模の見直しなど経営の効率性について改善する必要があります。

「有収率」については、当該値は平均値や類似団体より高いですが、後は漏水調査等の対策を講じ、効率をさらに高める必要があると考えられます。

以上のことから、現在の簡易水道事業としては類似団体及び全国平均よりも優位的な数値ではありますが、施設利用率に表れているとおり、給水人口減を見込んだ施設規模の見直しが必要になってくると考えられます。

2. 老朽化の状況について

門川町の簡易水道の老朽化状況は、耐用年数を経過した管路はありませんが、後は資産台帳に基づき老朽管更新計画を検討する必要があると考えられます。

全体総括

門川町簡易水道事業は、農林業地域の振興と環境整備の観点から生活改善等福祉的要素を含んだ事業であります。しかしながら、将来にわたって給水人口や給水量が減少傾向であることから、給水収益も減少することが予想されます。

水道の料金改定に合わせ、令和元年7月に平均約20%の水道料金値上げを行ったことにより料金収入が増加しました。また、令和2年9月に門川町簡易水道事業経営戦略を策定済みです。

今後も限られた財源の中で、優先順位を設け、資産台帳に基づき老朽管更新計画を検討する等、水道施設整備事業の計画を進めていきたいと考えています。